



早稲田小だより

1年42名 2年52名 3年57名
4年69名 5年61名 6年60名
計341名

早稲田小の感性

校長 中西 健二

このたび、全国家読書コンクールにおいて、本校の1年生と2年生の児童が柳田邦男賞に輝きました。心からうれしく、誇らしい気持ちでいっぱいです。

1年生の作品には、

「まま。かさこじぞうをみると、ちゃんとなぜかやさしくしたくなるんだ。だからもっとがんばるね。」

という一文がありました。物語を読んで終わりにするのではなく、登場人物の心を自分の心に映し取り、「やさしくなりたい」「がんばりたい」と行動につなげようとする感性。その素直さと温かさに、胸がじんわりとしました。

2年生の作品では、弟に宛てて、

だんごむしに命があるとわかって「やなおもいをさせないように、たいせつにしてね。」と語りかけています。本を通して命の大切さに気づき、それを自分より小さな存在に伝えようとする姿は、まさに思いやりの芽がしっかりと育っている証です。

この二つの作品から感じたのは、子どもたち一人一人がもっている豊かな感性だけでなく、日々その感性を大切に育ててこられたご家庭の温かなまなざし、そして、子どもたちの思いを引き出し、丁寧に寄り添ってきた教員の感性と指導の力です。学校・家庭が同じ方向を向いているからこそ、生まれた言葉だと感じています。

また先日、6年生の女子児童3人が校長室を訪ねてきました。

「卒業前に、みんなのためになることがしたい。」

「挨拶キャンペーンをやりたいので、校長先生からビデオメッセージをください。」

と、自分たちの思いをまっすぐに伝えてくれました。誰かに言われたからではなく、「学校をよくしたい」「みんなの役に立ちたい」と考え、行動を起こしたその感性に、頼もしさと成長を強く感じました。

低学年のやさしさに心が温まり、高学年の主体的な思いに未来を感じる――。

本校の子どもたちの感性は、確かに、そして着実に育っています。これからも、本を通して心を耕し、人を思う気持ちを行動につなげられる学校であり続けたいと思います。